

保育学生による地域子育て支援の取り組み — 2014年度活動報告 —

**A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2014**

田 中 誠 ・ 秋 山 真理子
鎌 田 雅 史 ・ 蔵 永 瞳
澤 津 まり子 ・ 笹 倉 千佳弘
柴 川 敏 之 ・ Z. 山田 章子
松 本 希 ・ 山 根 薫 子

保育学生による地域子育て支援の取り組み

— 2014年度活動報告 —

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2014

幼児教育学科

田 中 誠
秋 山 真理子
鎌 田 雅 史
蔵 永 瞳
澤 津 まり子
笹 倉 千佳弘
柴 川 敏 之
Z. 山 田 章 子
松 本 希
山 根 薫 子

はじめに

本学幼児教育学科では、子育て支援を目的とした学生ボランティアグループG B A (Girls and Boys Be Ambitious の略、以降G B Aと記す。)を結成し、2014年度で9年目を迎えた。G B Aの主な活動は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」と「学外就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の開催であり、過去8年間の取り組みについては既に報告済みである^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)}。

昨年度の報告では、今後の課題として、「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境作り」と「公演演目の決定と内容の確認」の2点を挙げた。それぞれの課題について、もう少し詳しい説明を加えておく。

「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境作り」という課題は、次のようなことであった。母親以外の父親、祖母、祖父が子どもを「やんちゃキッズ」に連れてくるケースが増えているため、①父親や祖父がおむつ交換をスムーズにおこなえるようにする、②父親や祖父が子どものトイレ補助をスムーズにおこなえるようにする、③受付の混雑を解消する、ということであった。また、④「学外やんちゃキッズ」における「子育て相談コーナー」については、相談件数は少なかったものの、相談者がいたという事実に向け、実施可能な

方法を模索していくという方向性が確認された。

「公演演目の決定と内容の確認」という課題は、次のようなことであった。演目の決定について「原則、基本に忠実である」ことを学生に伝えたが、話の盛り上がる所に意識が向かい、終わり方まで全体的に考慮した演目の選択ができない場合があった。そこで、学生の公演の経験数なども踏まえた演目決定の助言をおこない、教員への早めの台本提出と校正を徹底するということがあった。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめた、2014年度の地域子育て支援の取り組みについて、経過及び結果をまとめたものである。

1 活動内容

1) 「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」

「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の実施は今年で7年目を迎えた。年間の活動回数は昨年度同様8回である。例年通り、前半はパネルシアター・リズム体操・オペレッタ・手遊びを行い、後半は様々な遊びを行うことのできる交流広場と身長・体重測定コーナーで構成している。公演内容及び参加人数は、表1に示す。

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 4月26日	パネルシアター はなさかじいさん リズム体操 ぼよん行進曲 オペレッタ おおきなかぶ * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 120人 子ども 153人	76人
第2回 5月24日	パネルシアター ドレミファ音符を探しだせ リズム体操 ばわわがたいそう オペレッタ ともちほしいな おおかみくん * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 209人 子ども 161人	96人
第3回 6月21日	パネルシアター たなばた リズム体操 かえるのたいそう オペレッタ さるかにがっせん * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 130人 子ども 164人	79人
第4回 9月20日	パネルシアター おばけのおつかい リズム体操 サンサンたいそう オペレッタ にぎりめしころころ * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 140人 子ども 194人	58人
第5回 10月18日	パネルシアター どんぐりころころ リズム体操 ハッピージャムジャム オペレッタ 秋の遠足 * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 83人 子ども 97人	49人
第6回 11月22日	パネルシアター あわてんぼうのサンタクロース リズム体操 秘伝！ラーメン体操 オペレッタ ゴシゴシガラガラ～手洗いうがいであばい 菌から身体を守ろう～ * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 80人 子ども 97人	50人
第7回 12月20日	パネルシアター 今年の思い出 リズム体操 ナミナミナ オペレッタ どきどきわくわくクリスマス * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	大人 50人 子ども 49人	44人
第8回 1月24日	パネルシアター リズム体操 未定 オペレッタ * 幕間に手遊び、公演後 交流広場	未定	未定

今年度のテーマは「音楽」で、「みんなで楽しく♪ド・レ・ミ・ファ・ソ」として、「歌う」「演奏する」「音楽に合わせて体を動かす」等の要素をパネルシアター、リズム体操およびオペレッタの中に例年以上に多く盛り込み、「音楽表現」の一つ一つを大切にしていこう心がけた。また、参加型にすることによって、参加者に音楽の楽しさに触れてほしいというねらいも込めた。様々な童謡や、ピアノ以外の楽器・手作りの楽器なども効果的に用いることにより、子どもが音楽への興味・関心を持って楽しむことのできる舞台作りを工夫した。例えば、第2回のパネルシアター「ドレミファ音符を探し出せ」では、「音符」というものを具体的に扱い、楽器の演奏を加えることによって楽しめる物語を創作した。(図1) また、第5回のオペレッタ「秋の遠足」では、秋にふさわしい童謡をちりばめて、歌い、演奏していくことによって一つのオリジナル作品に仕上げた。虫の声を表現するのに「小物楽器」や「手作り楽器」を用いたり、参加者に呼びかけて一緒に歌ったりしたこのオペレッタは、多くの方から「楽しかった」という声をいただいた。(図3) これらの試みは、「音楽」を取り上げた今年度のテーマにふさわしいものであり、今後も続けていきたいと考える。また、交流広場では、平成24年度から始まり、参加者に好評であった「身長・体重測定コーナー」を、今年度も引き続き設けていくこととした。

今年度は、学内の工事に伴い、駐車場が減少したため、特に9月のやんちゃキッズは駐車できない車で混乱し、多くの参加者から駐車場不足への不満の声をいただいた。改善策として、10月のやんちゃキッズでは、南駐車場を新たに開放し、係の者が誘導する試みを行った。10月は大きな混乱はなく、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で開催することができ、参加者には概ね好評であった。しかし、今後参加人数が例年のように増えてくることを考えると、駐車場の確保は大きな課題である。図1～6に、今年度の様子を示す。

2) 「学外就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」

「学外就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」(以降、「学外やんちゃキッズ」と略)は、学内で実施する「やんちゃキッズ」に参加しにくい遠隔地域の親子を対象に、子育て支援の輪を拡大するとともに、学生がその地域の子育ての状況を理解することを主な目的として、例年、夏休みや冬休みの長期休暇を利用して実施してきた。本学幼児教育学科は、2年生が7月から長期学外実習(保育所・幼稚園・施設)を行うため、夏休み以降に行われる「学外やんちゃキッズ」は、1年生が活動の主体となる公演である。今年度の「学外やんちゃキッズ」の開催場所は、瀬戸内市長船町1か所に絞って実施した。公演の具体的内容及び参加者人数は、表2に示す。

公演の基本構成は、学内で行う「やんちゃキッズ」と概ね同様であるが、今年度の開催場所の決定は、瀬戸内市社会福祉協議会からの依頼があり、本団体の開催時期等の希望と合った場所(ゆめトピア長船)とした。



図1 パネルシアター 楽器の演奏



図2 オペレッタ



図3 オペレッタ 手作り楽器を用いて



図4 交流広場 フラフープで遊ぼう



図5 交流広場 ダンボールハウス



図6 交流広場 新聞シャワー

表2 学外やんちゃキッズ活動内容

日程	会場	公演演目	参加人数	学生数
9月24日 (水)	瀬戸内市長船町 ゆめトピア長船	パネルシアター「おばけのおつかい」 リズム体操「サンサンたいそう」 オペレッタ「おにぎりころころ」	大人 34人 子ども 43人	57人

* 幕間に手遊び、公演後交流広場、子育て相談コーナー

* 2年生が実習で不在のため1年生のみの参加となっている。

今年度は、岡山県からの委託事業（おかやま子育てカレッジネットワーク構築事業）として、おかやま子育てカレッジ「就実子育てアカデミー実行委員会」、G B A、瀬戸内市社会福祉協議会の共同主催という形で実施した。この事業は、「市町村や子育て支援拠点と連携し、おかやま子育てカレッジの取り組みを広めるとともに、子育て支援の更なる充実を図る」ことを目的としている。当日は、保育士や助産師にご協力頂いて、保護者に向けての子育て相談コーナーを設置した。相談件数は少数であったが、相談を必要とする保護者に目を向け話を聞くことで少しでも子育て支援の力になれると考える。学生にとっては、初めての学外での活動であり、会場の広さも参加人数も学内とは異なったが、学生の主体的に動く姿が多く見られ、参加の親子にも大変喜ばれた。図7～8に、「学外やんちゃキッズ」の様子を示す。

尚、学外を中心に始まったG B Aの活動は、「就実やんちゃキッズ」として学内に活動の拠点を移し、多くの参加者の支持を得て定着することができている。今後は、学内での「就実やんちゃキッズ」のより一層の充実を図るため、「学外就実やんちゃキッズ」は今年度をもって終了することとする。



図7 学外やんちゃキッズ受付



図8 ゆめトピア長船での公演

2 アンケートの方法及び結果

「やんちゃキッズ」では、保護者と学生に対し、アンケート調査を行っている。

1) 保護者へのアンケートの方法

受付でアンケート用紙を配布し、「やんちゃキッズ」終了時に回収した。アンケートでは、保護者に対し、①子どもの年齢、②子どもとの続柄、③やんちゃキッズのプログラムの内容に関する意見、④今後の参加意思について尋ねた。

2) 参加者の年次推移について

過去3年における月ごとの参加者の推移を図9に示す。2012年度は、最高で参加者が497名を記録するなど（第4回）、学生スタッフの不足及び子ども一人当たりの遊ぶスペースの減少等による子どもの怪我や事故について懸念されていたが、昨年に引き続き今年度の

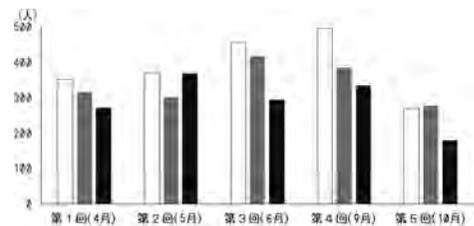


図9 やんちゃキッズの参加者の年次推移

参加者は減少傾向にあった。この背景には、2012年度は備前県民局の協働事業として実施していたため、本学科の広報活動に加えて、備前県民局の広報活動もあり、備前県民局管内及び各報道機関を通して広く周知されたが、今年度は本学科のみの広報活動であったためだと推察される。やんちゃキッズの安全性や、公演・交流広場の充実を考えた場合、比較的適切な規模で実施できたと思われる。

3) 保護者へのアンケート結果

以下の結果は、「やんちゃキッズ（4/26、5/24、6/21、9/20）」及び、「学外やんちゃキッズ（瀬戸内市長船町 9/24）」で得られたデータに基づくものである。協力してくださった保護者の数は、670名であり、例えば夫婦で回答している場合など、複数の回答者によって答えられたアンケートも含まれ、回収されたアンケートの総数は455件であった。

i. アンケートの記入者と子どもの関係

アンケート記入者と子どもの関係について、表3に示す。引率者の多くは、母親であり（90.8%）、次いで父親（13.2%）、祖母（4.0%）が多かった。アンケート記入者のうち、夫婦で一緒に回答しているケースが34件（アンケート455件のうち7.4%）あり、父もしくは母と一緒に祖父母が回答しているケースは、11件（アンケート455件のうち2.4%）であった。

表3 引率者の割合

	人数	割合
母親	413	90.8%
父親	60	13.2%
祖母	18	4.0%
祖父	3	0.7%
その他	3	0.7%
		109%

ii. 子どもの年齢について

1世帯当りの子どもの参加人数は、全体の59.6%が1人、34.1%が2人、5.3%が3人以上であった。子どもの総数は669人となっており、年齢の分布は、表4の通りである。全体的に、3歳未満の子どもが60.7%と半数を超えており、多い傾向がみられた。

表4 参加した子どもの年齢

	人数	割合
1歳未満	93	13.9%
1以上2歳未満	142	21.2%
2歳以上3歳未満	171	25.6%
3歳以上4歳未満	149	22.3%
4歳以上5歳未満	55	8.2%
5歳以上	59	8.8%
合計	669	100%

iii. プログラムについて

①全体の時間について

やんちゃキッズは、90分間のプログラムで開催している。プログラムの長さについて、参加者の印象を図10に示す。参加者の84.2%がちょうど良いと答えしており、プログラムの長さは適切であることが示された。

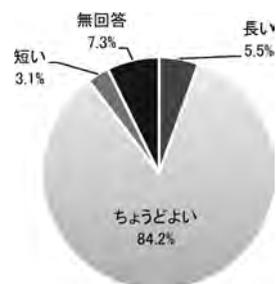


図10 プログラムの長さ

②特に良かったと思うプログラム

アンケートでは、良かったと思うプログラムについて、保護者と子どもに回答を求めた（複数回答可）。保護者と子どもが

選んだプログラムを表5に示す。

昨年に引き続き交流広場を良かったと答える保護者（66.8%）と子ども（48.8%）が最も多かった。また、二番目に多かったのがリズム体操、三番目に多かったのがオペレッタという点に関しても、昨年度と同様の結果が得られた。ただし、オペレッタに関しては昨年度よりも良かったとされる割合が多かった（昨年度と比べて、保護者による選択は約7ポイント上昇、子どもによる選択は約5ポイント上昇した）。オペレッタに関しては、本年のテーマが「音楽」であったため、これまでよりも音楽をふんだんに取り入れる工夫がなされていた。演目中の効果音や歌等に工夫がなされ、楽しめる要素が増えたことで、良かったと感じる保護者や子どもが多かったのではないかと考えられる。

表5 特によかったと思うプログラム

	手遊び	パネルシアター	リズム体操	オペレッタ	交流広場・身体測定	その他
保護者による選択数	117	69	209	152	304	1
（割合）	25.7%	15.2%	45.9%	33.4%	66.8%	0.2%
子どもによる選択数	64	35	139	86	222	2
（割合）	14.1%	7.7%	30.5%	18.9%	48.8%	0.4%

iv. 今後の「やんちゃキッズ」への参加意思について

図11に示す通り、保護者に対して「次回も参加したいと思いますか?」と尋ねた結果、「思う」と答えた参加者が84%であり、「思わない」と回答した参加者はいなかった。地域の子育て支援の取り組みとして、本活動は期待されていると言えよう。

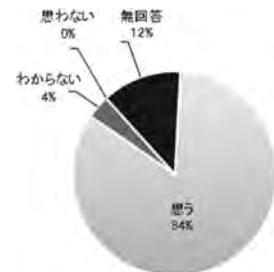


図11 今後の参加意思

4) 学生の振り返りのためのアンケートの方法

本アンケート調査は、学生自身が活動を振り返り、さらに問題点を抽出し、次回以降の「やんちゃキッズ」に活かすきっかけとすることを目的にしている。「やんちゃキッズ」終了後の反省会の時間に、学生にアンケート用紙を配布し回収した。質問紙は、①公演について振り返り（11項目）、②交流広場（子どもとのふれあい）に関する振り返り（10項目）、③全体に関する満足度の振り返り（2項目）の23の振り返り項目から構成されている。各項目について「あてはまる（5点）」「少しあてはまる（4点）」「どちらでもない（3点）」「ややあてはまらない（2点）」「あてはまらない（1点）」の5件法にて回答を求めている。加えて、公演と交流広場での活動それぞれに関し、学生がどのような課題を意識するようになったかについて自由記述による回答を求めた。7月の「やんちゃキッズ」までは、1年生と2年生の混合で実施し、9月の「やんちゃキッズ」及び「学外」では2年生の長期学外実習のため、1年生のみで実施した。各回でアンケートに回答した学生数は、4月（76名）、5月（96名）6月（79名）、9月（58名）、学外やんちゃキッズ（43名）であった。

表6 調査項目の記述統計および95%信頼区間の推定

	N	平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	95% 信頼区間	
					下限	上限
公演について						
意識して笑顔ができた	350	4.59	(0.65)	.035	4.52	4.66
みんなと協力することができた	352	4.50	(0.69)	.037	4.43	4.57
自分の役割がきちんと果たせた	350	4.46	(0.68)	.036	4.39	4.53
積極的に活動できた	351	4.42	(0.65)	.035	4.36	4.49
新たな課題が見つかった	346	4.14	(0.90)	.048	4.04	4.23
保育に関する技術が身についた	351	4.08	(0.67)	.036	4.01	4.15
臨機応変に行動することができた	351	4.05	(0.81)	.043	3.96	4.13
事前準備・練習がよくできた	351	4.01	(1.00)	.053	3.90	4.11
自分自身で創意工夫した	348	3.76	(0.84)	.045	3.67	3.85
人前で演技することが上手になった	349	3.71	(0.91)	.049	3.61	3.80
交流広場について						
自分も楽しく参加できた	344	4.69	(0.58)	.031	4.63	4.75
子どもと積極的に交流できた	344	4.54	(0.68)	.037	4.47	4.61
子育て支援への理解が深まった	343	4.22	(0.66)	.036	4.15	4.29
新たな課題が見つかった	339	4.17	(0.76)	.042	4.09	4.25
子どもについての理解が深まった	343	4.17	(0.62)	.033	4.10	4.23
自分に自信が持てるようになった	344	4.05	(3.51)	.189	3.68	4.42
他人の立場や気持ちをくみ取れるようになった	344	3.85	(0.72)	.039	3.77	3.93
保護者・高齢者と積極的に交流できた	344	3.74	(0.98)	.053	3.63	3.84
遊びのレパートリーが増えた	343	3.63	(0.93)	.050	3.53	3.73
全体的満足度						
全体的に今日の活動に満足できた	337	4.34	(0.73)	.040	4.26	4.42

「あてはまる(5点)」「少しあてはまる(4点)」「どちらでもない(3点)」「ややあてはまらない(2点)」「あてはまらない(1点)」

5) 学生へのアンケートの結果について

i. 調査項目の記述統計量

質問項目の集約と今後の改善を目的に、アンケートの各項目に関する、平均値、標準偏差、95%信頼区間について表6に示す。学生が楽しみながら子育て支援ボランティアを実践し、「就実やんちゃキッズ」が保育技術の習得や子ども理解の涵養の良い機会となっている事が伺えた。

また全体平均の95%信頼区間の推定の上限值が「4：少し当てはまる」に満たない項目については、今年度の学生の課題として捉えることができるとと思われる。公演については、個々の学生は自分に与えられた役割は責任をもって行うことができたと感じているが、自律的に臨機応援に取り組むことについては課題意識を持っている。また、交流広場では子どもだけではなく保護者等とのコミュニケーション力を身につけることなどが課題であると思われる。

ii. 1年生の取り組みの経時的分析

2年生の長期学外実習のため、「やんちゃキッズ」は、9月からは1年生が主となって活動する。9月は、定例の「やんちゃキッズ」のほかに「学外」も開催され、1年生は試行錯誤しながら急激な変化に適応していかなければならない。

振り返りアンケートにおける、1年生の公演および交流広場に関する得点を合算した、月ごとの変化について、図12に示す。公演については、合算した時の信頼係数を算出したところクロンバックの $\alpha = .79$ であった。交流広場については、信頼係数 $\alpha = .517$ と低い値であっ

たため、「自分に自信が持てるようになった」という項目を除外した場合、 $\alpha = .78$ と一定の信頼性を示した。

学生の交流、公演、課題得点および、活動全体に対する満足度の尺度得点を従属変数とし、測定時期を独立変数とした多変量分散分析を行った。その結果公演については、測定時期の主効果が認められ ($F(4,237)=3.61$, $p=.007$)、Tukey の HSD による多重比較においては、4月が他の月に比べ5%水準で有意に得点が低かった。これは、4月は1年生が活動を始めたばかりであり、公演を行うのがほぼ2年生であるためと思われる。

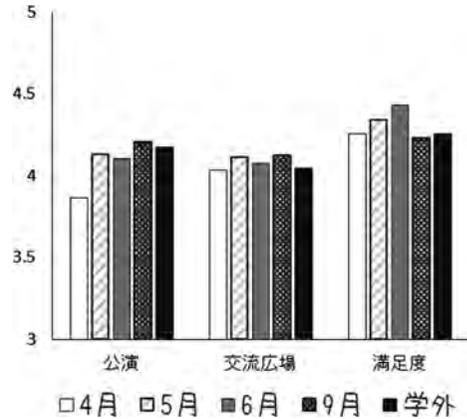


図12 月ごとのアンケート得点の変化

そのほかの項目については、5%水準での有意差は認められなかった。本アンケートの範囲においては、月ごとの違いはほぼ認められず、その平均得点の絶対値から、毎回のやんちゃキッズが学生にとって、公演の出来・不出来はあったとしても、その時々でよりよい会にしようとする頑張り、全体として比較的満足のいく活動となっている様子が推察される。

おわりに

2014年度の活動を今年度の課題にしたがって、次のように考察及び統括をし、今後の課題を提示する。

1 今年度の課題の達成状況

1) 全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり

①昨年度に引き続き、母親の以外の保護者が子どもを連れて参加するケースが増えている。授乳室とオムツ交換コーナーについては、外からみて、授乳室とオムツ交換コーナーがはっきりと分かるように飾り付けをするなど工夫して使いやすいようにした。また、授乳室のソファが劣化し座りにくくなっていたために、学生がクッションを製作し心地よく授乳できる環境を設定した。(図13)



図13 手作りクッション

②トイレについては、男性トイレと女性トイレの場所をわかりやすく表示するために、掲示物を作成し、受付でも案内した。

③受付の混雑解消について、配置の工夫をこころがけた。例えば消毒コーナーを会場内に移動し、靴を脱いだ後に消毒できるように配慮した。

④子育て相談コーナーについて、今年度も「学外やんちゃキッズ」で「子育て相談コーナー」

を設置した。相談件数は全2件であった。地元での開催であり多勢のなかでは相談しづらかったかも知れないが、少数であっても相談をしたい保護者に目を向け、今後も実施可能な方法を図りたい。

2) 公演演目の決定と内容の確認について

昨年度、演目の決定について「原則、基本に忠実である」ことを学生に伝えた。今年度9月に行ったオペレッタでは、小澤俊夫氏の再話「にぎりめしころころ」(福音館書店)を基にして台本を作り演じた。保護者にとっても今まで知っていた話とは異なる内容かと思われるが、幼児教育を専攻する学生として、基本(原作)を知り、伝えていくことも大切と考える。内容の決定については、演目決定に際しては教員が助言をおこない、さらに、やんちゃキッズ当日までのスケジュールを立て、教員への早めの台本提出を促し、校正に至った。また、今年度は初めてのオリジナルのあらすじのオペレッタ「秋の遠足」(図3)を公演したが、参加者から好評を得たので今後も継続していきたい。



図14 昨年の「おむすびころりん」
(『ネズミの餅つき』との混同が見られる)



図15 本年度の「にぎりめしころころ」
(小澤俊夫(再話)には、鬼が登場する)

2 今後の課題

1) 公演における音響について

音響については、毎回保護者からの不満の声が聞かれる。(声が聞こえない、雑音、ハウリング等)。今年度は音響機器の機材を新たに購入し、設備改善を図った。この設備改善は来年度も行う予定である。

2) 駐車場改善について

今年度の後半からの大きな問題は、駐車場の問題である。これまでは学生と教員で手分けして、駐車場整理をおこなってきたが、学内の新たな施設建設等に伴い駐車場不足が生じ、参加者からは駐車場不足の不満の声が多く出された。改善・対応策として新たに南駐車場及び浜駐車場の使用を可能とし、事故防止並びに駐車整理に警備員を配置した。しかしながら、この2ヶ所は会場から離れているため、幼児を伴う参加者にとっては不便であり、駐車場問題は今後の大きな課題として残る。

謝辞

2014年度の子育て支援ボランティアグループG B A及び「就実やんちゃキッズ」の活動は、平成26年度就実大学・就実短期大学学術・文化・スポーツ奨励金を受け実施した。加えて、「学外就実やんちゃキッズ」は、岡山県からの委託事業（おかやま子育てカレッジネットワーク構築事業）として、支援を受け活動を充実させた。記して深謝致す次第である。

引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子（2006）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－、就実論叢、36（社会篇）、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中誠、立石あつ子（2007）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－、就実論叢、37（社会篇）、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z. 山田章子（2008）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－、就実論叢、38（社会篇）、pp.285-298.
- 4) 澤津まり子、伊藤真、堤幸一、立石あつ子、笹倉千佳弘、Z. 山田章子、田中誠、山根薫子（2009）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2009年度活動報告－、就実論叢、39、pp.233-247.
- 5) 澤津まり子、立石あつ子、柴川敏之、秋山真理子、堤幸一、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子（2011）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2010年度活動報告－、就実論叢、40、pp.163-172.
- 6) 澤津まり子、柴川敏之、松本希、鎌田雅史、Z. 山田章子、秋山真理子、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子（2012）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2011年度活動報告－、就実論叢、41、pp.175-186.
- 7) 松本希、柴川敏之、澤津まり子、鎌田雅史、田中誠、秋山真理子、Z. 山田章子、笹倉千佳弘、山根薫子（2013）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2012年度活動報告－、就実論叢、42、pp.161-174.
- 8) 松本希、田中誠、澤津まり子、鎌田雅史、秋山真理子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、山根薫子（2014）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2013年度活動報告－、就実論叢、43、pp.325-336.